

小田急電鉄株式会社 プレゼン資料

平成31年3月8日
「認知症バリアフリー」に関する懇談会

《会社概要》

社 名

 **odakyu** 小田急電鉄株式会社
Odakyu Electric Railway Co.,Ltd.



社 紋

小田急の「小」の字をデザインしたもので、中央タテの線がレールの断面すなわち鉄道を、周囲の円は社内の和を象徴しています。

設 立

1948年(昭和23年)6月1日
(前身の小田原急行鉄道は1923年5月1日)

本店所在地

東京都渋谷区代々木2丁目28番12号

資 本 金

603億5,900万円

代 表 者

取締役社長 星野 晃司

事 業 内 容

鉄道事業・不動産賃貸業・開発事業・広告業・
その他事業

従 業 員 数

3,726名

《会社概要》

当社は、新宿を基点に、国立公園「箱根」の玄関口である小田原までを結ぶ「小田原線」、湘南エリア・江ノ島に向かう「江ノ島線」、多摩ニュータウンに至る「多摩線」の3路線、計120.5キロからなり、通勤や通学、観光など、さまざまな顔を持っている大手私鉄であり、一日207万人のお客さまにご利用いただいております。



社内における認知症サポーター養成(その他支援ボランティア)の取組

当社では、2017年に神奈川県秦野市と「小田急小田原線沿線まちづくりの推進に関する連携協定」を締結し、鉄道と地域を結ぶさまざまな連携をしておりますが、その一環として、秦野市からのお声掛けにより、2018年度から「認知症サポーター養成講座」を受講することとなりました。

現在、約1,000名の駅係員の中で、230名超が取得しております。今後も秦野市と連携し、継続して養成することで、駅には認知症サポーターが必ず勤務している態勢を目指します。



自社における認知症に関する取組

当社では、お身体の不自由なお客さまや、高齢のお客さまの歩行介助や車いすの介助など、電車の乗り降りや駅構内の移動を適切にお手伝いすることのできる知識・技能を習得するため、民間資格である「サービス介助士」を取得した駅係員を全駅に配置しております。

認知症サポーター養成の取組みの他に、地域との連携を深める活動を駅職場に推進しており、その枠組みのなかで、沿線自治体や企業・公共施設などからなるケア会議等の場に参加しました。

【会議内容】

「地域で守る認知症～地域資源を活用したネットワークづくり～」

各業界における認知症バリアフリーの実現に向けた課題・解決策

- 鉄道業界全体では、駅係員はもちろんのこと、お客さまにも協力していただく活動として「声かけ・サポート」運動を行っているが、認知症に対する姿勢としてはまだまだ受け身の立場である。
⇒地域行政との連携を強化し、まちの中心である駅が積極的に関わっていくことが必要。
- 鉄道業界の最大の使命は「安全」である。当然にソフト面も強化しているところではあるが、多くの認知症の人は、見た目ではすぐに判別できないことが多い。
⇒国民全体に認知症に対する理解の普及に努めることが必要。